



1



人道危機下で暮らす子どもたちのために

(1分03秒) **字幕**

「紛争や自然災害などの危機下で暮らす子どもたちが、どのくらいいるのか知っていますか?世界の4人にひとりです」ユニセフ活動に取り組む導入や、ユニセフ募金を呼びかけるための学習や集会などにオススメ。

2



長谷部誠大使 ロヒンギャ難民キャンプ訪問

(11分10秒) **字幕・日本語ナレーション**

プロサッカー選手で日本ユニセフ協会大使の長谷部誠さんが、60万人ものロヒンギャの人々が暮らす世界最大の難民キャンプを訪問。「この問題を知り、支援の輪が広がってほしい」長谷部大使が語ります。

3



南スーダン:栄養不良から回復したアデュちゃん

(1分40秒) **字幕・日本語ナレーション**

アデュちゃん(14カ月の女の子)は、マラリアと下痢の影響で食欲もなく、深刻な栄養不良(上腕の周囲10.5cm、体重わずか6.5kg)になってしまいました。そんなアデュちゃんが栄養治療を受け、回復していくようすが分かる動画です。36秒のところで紹介されている栄養治療食は、100円で3袋分になります。

4



Bangladesh:気候変動がうばったスマイヤちゃんのくらしと健康

(2分00秒) **字幕・日本語ナレーション**

気候変動からもたらされた洪水で故郷を離れ、スラム街での生活を余儀なくされたスマイヤちゃん。栄養不足から消耗症に陥ってしまいます。消耗症の子どもは無気力でボーっとした状態(食欲もなく体の反応が低下した状態)になります。特に重症の乳幼児の場合は、むずがったり、泣いたりといった子どもの自然な反応を見せることなく、感染症であつという間に命を落とすこともあります。栄養治療を受け、回復してくると笑ったり、何かを欲しがったり、泣いたり、「子どもらしさ」を取り戻していきます。

5



ブルンジ:すべての子どもに、安全な水を

(2分17秒) **字幕**

リリアンさん(14歳)が川へ水をくみに行くようす、くむ水の状態が分かる動画です。彼女のように、池や川の水(地表水)を未処理のまま使わざるを得ない人は世界に1億4400万人(2017年時点)いると推定されています。

6



私たちの可能性~ザータリ難民キャンプ・障がいのある子どもたちのお話~

(6分20秒) **字幕**

紛争が続くシリアからの難民が暮らす、ヨルダン・ザータリ難民キャンプ。障がいのある子どもも、厳しい環境の中での生活を強いられています。ユニセフは「誰ひとり残さない」ために、障がいのある子どもたちの意見を取り入れながらトイレの設置を進めています。

7



100円の旅

(1分58秒) **字幕**

例えば100円の募金...その募金がどのように使われているのかを紹介するアニメーションです。募金活動の前や後に見ることで、ユニセフ募金について理解を深めることができます。

8



世界に広めよう「持続可能な開発目標(SDGs)」Ⅲ

(4分37秒) **字幕・日本語ナレーション**

国連の「SDGs(持続可能な開発目標)」を達成するために、私たちひとりひとりにできることがあります。まずは身近なところから、そして地域へ。ひとりの力は小さくても、みんなが行動を起こせば、大きな変化が生まれる可能性が広がります。

9



ユニセフと地球のともだち

(13分23秒) **字幕・日本語ナレーション**

ユニセフと世界の子どもたちの現状について基礎から学ぶことのできる映像です。社会科の授業で国連やユニセフについて学習する際や、ユニセフ活動に取り組む前の学習にオススメ。

ユニセフ親善大使のメッセージ

10



子ども兵士だったぼく ~人生を取りもどすために~

(2分34秒) **字幕**

1991年~2002年まで内戦が続いたシエラレオネ。13歳の時に子ども兵士にさせられたイシュマエル・ベアさんは、同じように厳しい経験をした子どもたちのために活動しています。

11



難民キャンプから始まった私の旅 ~教育の大切さを伝える~

(2分49秒) **字幕**

14歳のとき、紛争が続いていたシリアから家族でヨルダンに逃れ、難民となったマズーン・メレハンさん。難民キャンプで教育の大切さを伝える活動を始めた様子を語ります。